

組織部速報

2015年10月30日

No. 19

10.23関係省庁要請行動！！

たしろかおる参議院議員と共に 鉄道貨物輸送の役割を訴える！

10月23日、JR貨物労組はたしろかおる参議院議員およびJR総連武井委員長とともに、国土交通省と環境省への要請行動を行いました。鉄道貨物輸送の社会的使命について訴え、具体的にはDE10後継機開発への支援や、コンテナ輸送用の緊締装置調達の際の税制特例措置などを求めました。

JR貨物労組はJR貨物が抱える構造的諸問題の解決に向けて、たしろかおる議員と共に粘り強い取り組みを行います。

2015年10月27日
← 運輸新聞

役割発揮へ支援を

JR貨物
労組
役割発揮へ支援を
国土・環境省に要請行動

全日本鉄道労働組合総連合会（JR総連）と日本貨物鉄道労働組合（JR貨物労組）は23日、来年度概算要求および税制改正要求に関して国土交通省および環境省に要請行動を行った。JR貨物労組の松村慎一 副委員長、同行した田城郁参議院議員が要望内容を説明。災害発生時に迂回輸送が必要な際、どこでも入れる機関車が必

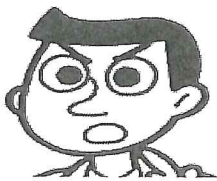


要望書を手渡す（左から相澤、武井、藤田、田城各氏）

入、40は背高コンテナ実験支援などを求めた。これに対し、国土交通省の藤田耕三鉄道局長は「鉄道貨物は、大事であり、特に労働力不足で期待が高まっている。

要となるため「輸送機材や荷役機器の設備導入とDE10型機関車の後継者開発へ支援」を、鉄道貨物輸送の役割を發揮するために、トラックや海上との連携が必要であり「JRコンテナ輸送量緊締装置付トラックを調達する際の税制上の特例創設、雪氷輸送促進への支援策」などを挙げ、予算面では31にコンテナ導

JR総連の武井政治委員長は「北海道などでポトルネックがある」とし、JR貨物労組の相澤武志委員長は「北海道新幹線で物流は陰に迫いやられがち。環境人口減・食糧問題で鉄道の役割は



大きい。労使挙げて鉄道事業の黒字化に向け、覚悟を持って汗を流している」と表明。藤田局長は「青函トンネルは難しい問題はあるが、旅客と貨物を両立させることを一生懸命考へる。今後も見交換を」と答えた。